

【自由記述】

[自由記述]

Q1SQ1. 学外対応担当部署の内容―「その他」の回答

国公立

- ボランティア愛好会の顧問が対応する。
- 学生のサークルとして「学生ボランティア本部」が有り、ボランティアのコーディネート等を行っている。また、学生支援課の担当が他の業務と兼務で担当している。
- 学生課事務の一環として
- 学生支援GPによる時限付きの部署が、人間関係力を高める目的の手段としてボランティア活動を扱っている。
- 担当はいないが、協力依頼があれば教務学生課が掲示等で対応している。

私立

- サークル活動の顧問が窓口になっています。
- 授業「社会体験講座Ⅰ」の担当が行っている
- ボランティア・NPOを担当する部署はないが業務の関連で照会協力や依頼をうける場合がある。
- 学生が主体となって運営するボランティアセンター
- 学生サービス室で相談には応じる。
- 学生委員会
- 学生課、福祉学科ボランティア相談室
- 学生課が対外的な一応の窓口ではあるが、専門的には「四国大学学生ボランティア支援室」が大学のボランティアの窓口となり設置されている。運営は、学生ボランティアコーディネーター7名が交替制により配置され、学生で運営され専門的にボランティア活動の需給調整を行っている。アドバイザーに専門教員2名が兼務している。
- 学生生活委員会の中で、必要がある場合に対応している
- 学内サークル及び統括機関が対応
- 学内にNPO法人の活動拠点があり、そのスタッフ・学生達と日常的に連携・連動して活動を行っている。
- 担当する部署は無く、学生サポート担当の担当者が対応
- 担当とまではいかないが、依頼等があった場合は学生課にて対応。
- 担当教員が窓口となっている
- 担当教員が窓口になっているが、部署はない。
- 内容により扱う課が違う
- 部署はないが、学生課が対応している。
- 部署は設けておらず、学生課が業務の一つとして、照会・協力依頼などに対応している。
- 複数の団体が各々対応している。

Q2SQ1. 学内対応担当部署の内容―「その他」の回答

国公立

- ボランティア愛好会の顧問が対応する。
- 学生のサークルとして「学生ボランティア本部」が有り、ボランティアのコーディネート等を行っている。また、学生支援課の担当者が他の業務と兼務で担当している。
- 学生課事務の一環として
- 学生支援GPによる時限付きの部署が、人間関係力を高める目的の手段としてボランティア活動を扱っている。

私立

- クラブ・サークル活動は、学生課 授業を通してのボランティアは、現代社会学部の教員が中心になっています
- ボランティア・NPOを担当する部署はないが業務の関連で情報提供・相談等を担当する場合がある。
- ボランティアクラブ活動の顧問が中心に提供・相談を担当している
- ボランティア活動経験のある学生が養成され、学生ボランティアコーディネーターとして対応している。
- 課外活動の一環とみなす場合
- 学生が主体となって運営するボランティアセンター
- 学生サービス室で相談には応じる。
- 学生委員会
- 学生課・保健室で相談を受け付けている。
- 学生生活委員会にて必要がある場合に対応
- 学内にNPO法人の活動拠点があり、そのスタッフ・学生達と日常的に連携・連動して活動を行っている。
- 教員が兼務
- 担当とまではいかないが、依頼等があった場合は学生課にて対応。
- 担当教員が窓口となっている
- 特に特定の部署は設けていないが、学務課で対応している。
- 内容により扱う課が違う
- 部署ではなく、学生からのボランティアに関する相談を受ける委員会が存在し、教員と学生生活支援センター職員が対応している。
- 部署は設けておらず、学生課が業務の一つとして情報提供や相談を行っている。
- 複数の団体が各々対応している。

Q2SQ4. 担当専門職の雇用形態—「その他」の回答

国公立

- 業務協力者
- 非常勤職員

私立

- NPO法人のスタッフ（アルバイト）が担っている。
- 専門的に「四国大学学生ボランティア支援室」がボランティアの窓口となり設置されている。運営は、学生ボランティアコーディネーター7名が交替制により配置され、学生で運営されボランティアの対応を専門的にしている。アドバイザーに2名の教員が交替で兼務している。

Q2SQ7. 担当部署の設置体制—「その他」の回答

国公立

- 「学生部・学生課系」+「地域連携担当部局」の体制
- 一教員がボランティアとして活動
- 学生支援センター、国際センター所属
- 学生支援機構
- 学生部・学生課系、教務部・教学課系、地域連携担当部局
- 学務課教務係学生担当
- 教務学生グループ
- 必要に応じ学生指導担当の教員が関わる

私立

- 「学生部・学生課系」及び「特定の学部・学科系」
- 「学生部・学生課系」及び「地域連携担当部局」
- 2つの体制があり、事務局の中で「学生部・学生課系」に該当する「学生支援課」および、「特定の学部・学科系」に該当する「ボランティアセンターくりっぷ」がある。
- NPO法人は学内のすべての部署と随時連携している。
- キリスト教活動委員会
- 設置体制は未定です。ボランティア・NPOが学生に対応する内容か、そうでないかによって担当部署が変わってくると予想します。
- それぞれの課で対応
- ボランティアの主体により受付の窓口が異なる
- 学校法人
- 学生サークル団体
- 学生の課外活動として、ボランティアサークルの顧問を教員が受け持つ。
- 学生課と進路就職課で分担している。
- 学生課系、教学課系の両方を取り扱う部署
- 学生主体の運営(NPO法人)
- 学生生活委員会
- 学長・副学長直結の部署である地域連携担当部局で業務を行っている。
- 学務部（「学生部・学生課系」+「教務部・教学課系」）
- 教職員会議で検討等している。
- 教務、学生、就職に関係し、学外との関わりを伴う学習や活動について『学外学習委員会』が包括した位置づけとなっている。
- 教務、学生支援部局が相談に応じる程度。
- 建学の精神に基づき、キリスト教センター内に設置されている
- 厚生課
- 資格支援に関わる部署（教員・保育士）
- 実際には、ボランティア活動の専門的部署は無く、ボランティアの依頼があれば、その学科等で対応している。
- 宗教部 キリスト教センター
- 「学生部・学生課系」「教務部・教学課系」「就職部・キャリア支援系」「特定の学部・学科系」で行っています。
- 短期大学部事務室 学生係・就職係
- 地域共創センターは「地域連携担当部局」、教務学生課は「学生部・学生課系」
- 独自の組織として存在している。責任者は、短期大学部長と教員2名である。本学独自の学内「特定の学部・学科系」Pのようなものである。現在は位置教員の特別教育費予算を確保し運営している。約60%が学生ボランティアコーディネーターの賃金である。
- 複数課で担当する。

Q2SQ8. 担当部署の設置場所―「その他」の回答

国公立

- 学生センター
- 学生課
- 学生支援系の業務にボランティア関係も含んでおりますが、「ボランティア専門」の部署ではありません。
- 学生室（学生指導・学生支援全般を担当する教員から成る部署）
- 教員室
- 顧問教員の研究室で対応する。
- 事務室
- 担当教員研究室

私立

- ボランティア担当者の研究室
- ボランティア募集の掲示版のみ
- 連絡用の窓口のみ
- 学生 部室内
- 学生サークルのクラブハウスを利用している
- 学生サービス室で相談に応じる。
- 学生ホール
- 学生ボランティアサークルの部室利用
- 学生課
- 学生課として情報提供のみ。専用の場所はない。
- 学生課の職員が他の業務と兼務して執務しているので特別のスペースは設置されていない。
- 学生課掲示板
- 学生支援課で対応している。
- 学生支援課の業務の一部として行っている。
- 学生支援課は「他の部署と共用の部屋・スペースに設置されている」、ボランティアセンターは「専用の部屋・スペースに設置されている」
- 学生生活課内の部分的なスペースで対応している。
- 学生生活担当窓口で対応
- 学生部で扱っている部屋
- 学生部学生課内
- 学務部学生課内
- 業務は学生課窓口で対応しているが専用のスペースは設けていない
- 掲示板のみ
- 現在のところ教務課が担当
- 現代社会学部教員の研究室や共同研究室など
- 事務局 教学課が担当部署になります
- 事務局内または各教員の研究室
- 事務室内
- 設置という認識ではなく、教学部内の業務の一環としているので 場所は教学部内。
- 設置はしていないが事務部学生担当が業務を兼務している。
- 設置体制は未定です。ボランティア・NPOが学生に対応する内容か、そうでないかによって担当部署が変わってくると予想します。
- 専任スタッフ、専用の部屋はなく、学生課・学友会の業務の一環として対応している。
- 専門的な部署は無く、各学科の研究室等で対応している。
- 専門部署がないので担当部署内

- 他業務を担当している部署に設置
- 担当教員の研究室
- 担当部署がしているので、スペースまでではない
- 短期大学部事務室
- 特定していない（講義室または顧問の研究室）
- 半年に2～3回の委員会を開催する。
- 部署としての場所はなし、学生課が窓口。

Q2SQ9. 担当部署の業務内容―「その他」の回答

国公立

- (海外) 安全に関する情報提供
- ポスター掲示などの情報提供のみ
- ボランティアの実施に関する連絡調整
- 学外からの照会、協力依頼等の学生への周知及び対応
- 学内掲示
- 関係書類等の掲示等

私立

- ボランティアに関する学生団体登録の申し出があった場合の受付及び承認
- ボランティア関係の案内を学生に周知等
- ユニホームや清掃用具の提供
- 依頼・要望があれば随時対応する。
- 依頼されたボランティア内容を振り分け、各学科の担当者が掲示などで対応。
- 学生からボランティアに関する問い合わせがあった場合に対応
- 学生サービス室で相談に応じる。
- 学生の学内・学外活動に関すること、学生証等に関すること、学生に関する渉外事務に関すること、奨学金に関すること、健康診断の実施等に関すること、学生の福利厚生に関すること、学生寮・下宿に関すること、アルバイト斡旋に関すること、学生の生活指導に関すること等
- 学生ボランティア団体支援（組織運営のためのセミナーの開催 年2回）、メルマガの発行、活動報告書等の作成、全国大学ボランティアセンタースタッフ対象の勉強会の開催など
- 学生課で対応
- 学生支援GP
- 県社協ボランティア推進センター・県ボランティア連絡協議会・市町村ボランティアセンターとのネットワーク（連携）や情報交換
県内大学ボランティアクラブ等連絡会が県ボランティア協議会主催で開催され、県内4つの大学・高専が情報交流を行っている。
- 情報の提供
- 年に一度ボランティアに関する報告書を学内で公募し、ボランティアに従事する学生への奨励金を授与する。
- 本学は通信教育部のみの短大であり、通学部のように学生へのボランティア支援の教職員はいない。ただ、ボランティアの科目の設置があり、申請に基づき単位を認定しているので、その関係の教員は配置している。

Q2SQ10. 学内への情報提供方法—「その他」の回答

国公立

- 学級担任を通して連絡
- 教員会議の場で
- 積極的に情報収集することは無いが、依頼があったものについては、掲示及びパンフレットの設置等を行っている。

私立

- ボランティア情報をファイリングし、自由に閲覧希望者に直接声をかける
- ML経由
- キリスト教センターで募集
- チラシ等の設置
- パンフレットの設置
- ファイル閲覧
- 各学科の教員を通じて学生へ参加を呼びかける
- 学科ごとに掲示。
- 学生サービス室で相談に応じる。
- 学生専用ポータルへの配信等
- 学内の各委員会への提供
- 関連部署へ写しを配布。
- 希望している学生へ直接紹介
- 現在短期大学部にボランティアを希望している学生がいらない為、事実上運営をいたしておりません。
- 資料を自由に受け取ることができるスペースへ置く。
- 専用のファイリング
- 窓口にて対応

国公立

- キャリア支援
- スクールボランティア
- 他の団体から寄せられる上記の種類以外の学生を対象としたボランティアニーズの発信
- 環境ボランティア（校内美化）
- 現在のところ積極的な活動支援は行っていない。
- 古切手回収等
- 社会福祉協議会等の主催する地域イベント等の手伝いなど
- 地域のゴミ拾いを行っている。

私立

- 区内児童館事業の手伝い
公民館等での子ども達への英語ボランティア
- クラブ・サークル等の施設・教育機関への派遣
- サークル活動の一部又は、現代社会学部の授業の一環として行っている
- 授業に関連したボランティア体験学習、ボランティア演奏
- バルーンアート（風船を使っているんなものを作る）の技術を使って、地域の行事、保育所、福祉施設などの行事に参加し、触れあうなど。
- ボランティア活動は学生の自主活動であるから、特定の活動分野に力をいれることはない。
- ボランティア活動を行っているサークルがその時その時によって内容が違うため、その他とした。
- 医療・福祉施設等の依頼によりその環境改善に関する活動をする。
- 介護施設での行事への参加活動
- 宮城県警察の「ポラリス宮城」
- 近隣の小学校へ留学生派遣
- 元気な高齢者を支援する
- 現在、学内にボランティアセンターを立ち上げるべく、学生支援GPの一つとして、学生主体の「ボランティア支援プロジェクト」を作っている。そのプロジェクトの活動支援に力をいれている。
- 公共機関や地域からの要望に応える形で実施（特に分野は特定していません（スキル不足により、特定できないと言うのが現状です））
- 施設等で運動会等の運営ボランティア
- 歯磨き指導
- 障がい学生への支援 ノートテイク
- 障害者スポーツ
- 新入生に対する相談・援助を行う「ウェルカムナ・ビゲーション」という学生ボランティア団体があるが、大学として、力を入れて支援している。
- 人権NGOボランティア
- 数年前まで「子供たちにスポーツ、レクリエーションなどの指導をする」に値するサークルがあったが、現在は存在せず、学生がボランティア活動したという報告もない。
- 赤十字のボランティア
- 大学見学に来る方を案内する学生ガイドボランティア
- 地域共創センターでは、「地域の歴史を掘り起こし、伝統文化やお祭りなどを守り育てる」、「自然や環境を守る」、「いきいきとした地域を作る」。教務学生課では、「いきいきとした地域を作る」、「お年寄りや障害のある人などを助ける」、「子供たちにスポーツ、レクリエーションなどの指導をする」。
- 地域清掃等、献血活動など
- 地元老人会とクリーン活動
- 町内会との合同清掃活動

- 提携を結んでいる教育委員会への学生ボランティアの紹介
- 動物愛護の精神に則り、捨て犬・捨て猫シェルター等でのボランティア活動など
- 特になし（外部からの依頼に基づいて、受動的に情報提供）
- 福祉施設への部（クラブ）の慰問
学園祭への福祉施設入所者の招待
- 保育、読み聞かせ、演奏 等
- 保育科のみの短期大学であるので、園行事の手伝いがボランティアの主な活動となっているので、力を入れている活動分野といえるかどうかわかりません。
- 保育所・幼稚園でのボランティア
- 募金活動
- 防災とボランティア活動で県・市防災体験フェスタ等災害支援のボランティア意識の向上
- 本学では、ボランティアは全面的に支援をしています。
ボランティアメンバーが多数必要な場合に苦慮している。
- 本学は通信教育部のみの短大であり、通学部のように学生へのボランティア支援の教職員はいない。ただ、ボランティアの科目の設置があり、申請に基づき単位を認定しているので、その関係の教員は配置している。
- 幼稚園・保育園・高齢者施設・障がい者施設・児童擁護施設等でバザーやイベント等のお手伝いをする
- 幼稚園教諭、保育士を目指す学生が幼稚園、保育園にボランティアにでかける。

Q2SQ13. ボランティア活動支援に係る学内の委員会等設置有無―「その他」の回答

国公立

- 学生の厚生補導に関する事項を審議するため学生委員会を設置しており、審議事項のひとつに学生の課外活動（ボランティア活動含む）がある。また、事務組織として学生支援室を設置している。
- 学生委員会
- 学生支援GPプロジェクトの推進機関
- 学生支援委員会
- 学生生活に関する協議機関
- 本学の設立団体である公立大学法人島根県立大学が、県立大学及び短期大学部に共通する学務を処理するために、全学運営組織として設置している。

私立

- 「設置している」というより、ボランティア活動を支援するケースがある場合は、「学生部」で検討されることになる。
- キリスト教センター長、チャプレン、教務課担当者、学生課担当者でボランティアビューロー連絡協議会を設置
- ボランティアセンターの事業、予算などの諸事項について協議・決定する委員会をセンター内に設置している。
- ボランティアセンター員（各学部及び事務）による委員会
- 運営スタッフとアドバイザーで運営委員会を構成し活動している。
- 学生センターを事務主管とする各学部の学生指導担当教員を委員とする委員会
- 学生の厚生補導等に関する委員会の中にボランティア活動に関する小委員会を設置している。
- 学生委員会
- 学生生活の指導を行う部署
- 学生部長の諮問機関
- 学部の委員会（協議機関）
- 活動に見識のある教員、事務職員、学生で構成
- 関係教職員の連絡協議機関
- 教育職員・事務職員の協議・決定機関
- 教員8名と学生課で構成されており、教授会で決定する前の段階の決定機関
- 教員と事務職員の協議機関
- 教授会の下部組織・学長の諮問機関
- 全学的な協議・決定機関の中で、必要に応じて付託された特定の専門的事項を処理する教育部門委員会
- 必要に応じ、教務部委員会・学生部委員会において協議を行う。
- 野田市教育委員会とのパートナーシップ協定に基づく協議組織

Q3. 学生ボランティア活動支援の今後の重点施策―「その他」の内容

<1位>

国公立

- これまで学生のボランティア活動の支援に積極的に取り組んでこなかったため、学生の関心の度合いが分からない。まずアンケート等を実施し、学生のニーズを確認したい。

私立

- ボランティアセンターの運営に対する大学・教職員のより効果的な関わり
- ボランティア活動は学生の自主活動である。
- ボランティア活動をしている学生の把握
- 教員や保育士を目指す学生の多くに、学校・園でのボランティア活動に参加させる。
- 社会体験・貢献、ボランティア活動等を通して、学生一人一人の学びの成長、教育的効果を見据えたプログラム等を学内外諸機関と共に創出し、学生へ提供すること。
- 毎日の授業が、過密であり、学生が自由に活動する時間を確保することが重要だと思います。

<2位>

私立

- ボランティアに取り組む学生に対する危機管理意識の啓発など。
- 学生が自らボランティアに参加する事に対し支援する。

<3位>

国公立

- ボランティア・NPO関連科目の充実

私立

- サービスラーニングセンターを維持するための資金
- ボランティア活動に必要な学外のフィールドの開拓と整備
- 学生ボランティア活動支援に取り組んでいる。
- 学生ボランティア団体の総合的支援（資金面、活動場所など）体制を通して学内外認知を高めること
- 学生自治としての活動を評価している。今のところは、担当部署を設ける予定がない。
- 学内ボランティアサークルとの連携

Q4SQ1. ボランティア活動推進のための予算の種類―「その他」の回答

国公立

- ボランティアサークルへは大学自治会よりサークル補助金あり
- 学生サークル活動助成として、後援会から予算措置してもらっている。
- 学生会からの助成金
- 学生会費
- 学生後援会経費
- 学部後援会からの課外活動援助金
- 地元自治体による予算化
- 同窓会からの援助

私立

- キリスト教センター予算内のボランティア事業分から予算を充てる
- クラブ予算
- ボランティアサークルに対して補助金を交付。
- ボランティア保険補助
- 学生会のクラブ予算
- 学生会運営費
- 学生支援課では予算措置を行っていないが、ボランティアセンターくりっぷでは大学等独自の予算を設けている。
- 学生親睦会より捻出。
- 学内サークル統括機関の予算
- 学友会という学生自治組織よりボランティア部に部費として予算措置を取っている。
- 学友会費から支援（部費等）
- 県社会福祉協議会
- 後援会の資金
- 後援会より助成。
- 私学等経常費補助金
学部教育の高度化・個性化支援メニュー群
「教育・学習方法等改善支援」
- 焼津市の委託事業費(12万円) 放課後子ども教室推進事業
- 地方行政
- 富山県社会福祉協議会の支援事業である学生ボランティア育成支援事業に応募（平成15年から毎年応募）
- 富山県社会福祉協議会ボランティア助成金
射水市社会福祉協議会ボランティア助成金
- 歯科大学学友会（学生の組織）

Q4SQ2. ボランティア活動推進のための予算措置を「文部科学省の競争的資金等」「他省庁の競争的資金等」で措置している場合の省庁名・プログラム名等

国公立

- 学生の指導力・実践力・人間力を高めるためのボランティア活動支援システムの構築
- 特色ある大学支援プログラム（特色GP）
- 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」
- 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」

私立

- 特色ある大学教育支援プログラム
現代的教育ニーズ取組支援プログラム
- 2008年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」採択。（サービスラーニングによる学生支援の総合化・ライフデザインと社会人基礎力の養成）
- 学生支援GP
- 現代GP（広域）「地域活性化ボランティア教育の深化と発展」
- 私立大学教育研究高度推進特別補助
- 文科省 教育GP
- 文部科学省（学生支援GP、特色GP）
- 文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」
- 文部科学省「私立大学教育研究高度化推進特別補助」
- 文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」
- 文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）」
- 文部科学省平成19年度「私立大学等経常費補助金（私立大学教育研究高度化推進特別補助）」課題名「地域から国際まで社会に貢献する人材の育成」（H19～21年度）

Q4SQ3. ボランティア活動推進のための予算措置についての課題

国公立

- ボランティア活動推進ではなく、学生の自主活動支援として予算措置をしている。そのため、ボランティア活動（団体、個人を問わず）支援を大学が行っているという趣旨が伝わりにくい状況である。今年度は、団体、個人から申請があり配分することができた。
- 安定的でないこと。
- 学生支援GP終了後の事業継続に関する予算
- 継続するための予算が乏しい。
- 今年度で事業終了のため、来年度以降の予算措置の対応
- 設備備品費使用の緩和
- 幅広く、学生の活動を支援する予算が必要。
- 補助金額が少なく、学生の負担が大きい

私立

- ボランティア基金の創設の検討
他の団体からの資金援助など
- 3年の補助期間後のボランティアセンター運営財源の確保（特に人件費の補填）
- GP終了後の予算確保
- ボランティアは自発的に無償でやるものだという学内の認識があるため、予算を多く取れない。
- 学生の活動別に学外から資金援助いただくものや、クラブでの活動については活動補助の制度が整備されているが、地域の要請、ボランティアに合わせて生まれる自主的な学生グループの資金支援が未整備である。
- 学生の負担が大きい海外ボランティア（例：国連人権機関でのNGOボランティア研修はジュネーブ、NYで実施される）の場合、学生への直接補助が必要だが思うようにできない。
- 学生主体のボランティアセンターをNPO法人として運営しているため、大学からの予算措置は行っていない。
- 学生中心の大学をめざす点についてはの学内の一致した方向性。
- 学内でのボランティア支援を取り巻く厳しい現状に理解と協力を得られずボランティア支援体制そのものが根底から崩壊しつつある。
- 学内における「ボランティア（活動）にわざわざ予算を充てなくても運営できる（やれる）だろう」という現状にそぐわない意識
- 学部の予算の枠内でボランティアに予算を付けているため、ボランティアに力を入れようとすると学部の他の項目の予算を削らなければならないため、あまり予算を充当できない。
- 活動資金の必要性。
- 決定後に補助金が入金されるまでの期間が長いため、最初の予算施行が困難である。
- 現在短期大学部にボランティアを希望している学生がいらない為、事実上運営をいたしておりません。
- 現代GP終了後のプログラム運営資金
- 現代GP終了後の予算措置
- 特になし。学生支援GPのお陰で、学内のボランティア支援プロジェクトが活性化し、ボランティアセンターが立ち上がる予定。
- 文部科学省の定める競争的資金付与期間後の予算確保
- 予算一律10%削減の方針が出されており、予算増額は困難である。

Q5. 担当者の課題・困難—「その他」の回答

<1位>

国公立

- ボランティア・NPOに関する担当部署がない為
- 現在、部署の設置がなされていない。
- 本学の場合、学生は講義・実習等がぎっしり詰まっており、ボランティア・NPOに使える時間及び精神的余裕がない

私立

- できる範囲内で行っている
- ボランティア依頼する側とされる側の事情・背景や認識に違いがある場合がある。
- ボランティア活動は学生の自主活動であるから相談に応じること。
- 教職員の執行・運営体制の確保
- 現在短期大学部にボランティアを希望している学生がいない為、事実上運営をいたしておりません。
- 資格取得のため授業が詰まっており、学生のボランティアの時間確保が難しい。
- 資格取得のため授業が詰まっており、時間的にボランティア活動に参加するのが難しい。
- 短期大学のため授業数確保の関係で、ボランティアをできる時間がかぎられてしまう。
- 本学は、学部を持たない大学院大学のため、教職員・学生数ともに人員が少なく、この分野に注力できる余裕が少ないと感じている。
- 理系大学のため授業が詰まっていること、大学が市街地から遠く交通の便が悪いところに立地していることなどから、時間的余裕が無いため

<2位>

私立

- ボランティアに行くための交通手段の確保

<3位>

国公立

- 就職担当部署等がキャリア教育としてボランティア・NPOの業務を行うべき。

私立

- 2年制の学生にとっては、実習があまりに多く、活動する時間がない。
- ボランティアを履き違えている者がいること。本来は、学業優先であるところを、本末転倒しボランティアのために授業を休む者がいること。単純労働者確保のために、ボランティアと称し活動する団体があること。（地方公共団体に多い）いわゆる、ボラバイトの問題
- 学生スタッフの育成
- 業務の質と量に応じたスタッフの充実
- 人員不足。
- 大学の組織に組み込まれると、成果と実績が問われる。ましてや予算が伴うとがんじがらめになる。学生の主体性を問いボランティアイズムをしっかりと持ち、サービスラーニングの展開にしていくためには、指導教育体制の持てる影のサポーター的な体制と財政負担が位置づけが必要である。
- 担当者のスキルアップ
- 内容にもよりますが人員確保。
- 本学は、本年4月に開学した単科大学です。現時点での状況について回答可能な項目について記入しています。このような事情から「なし」との回答が多くなっていますが、次年度以降においてもボランティア活動の推進・指導に努めたいと思います。

Q8. 学生ボランティア活動支援の成果

<1位>

私立

- ボランティア活動は学生の自主活動である。
- 建学の精神を実践する
- 現在短期大学部にボランティアを希望している学生がいない為、事実上運営をいたしておりません。
- 自ら市民参加や社会貢献とボランティア活動の意義を結びつけていく
- 本学はキャンパスが2つありキャンパスごとで意見が異なる為、その他の選択とし、下記のように回答致します。
 - キャンパス
 - 14. 建学の精神の啓発に役に立つ
 - キャンパス
 - 3. 学生の公共の精神やマナーの向上に役に立つ

<2位>

私立

- 学生の社会性・社会力の向上
- 本学はキャンパスが2つありキャンパスごとで意見が異なる為、その他の選択とし、下記のように回答致します。
 - キャンパス
 - 10. 地域社会からの大学等への評価が高まる
 - キャンパス
 - 1. 学生の学ぶ姿勢や意欲の向上に役に立つ

<3位>

国公立

- 学生の地域への所属感をはぐくむ。

私立

- 「学生主体の大学づくり」に役立つ
- 学外のボランティア活動家や行政関係者と対人関係が深まる。
- 社会問題への関心
- 誰かに必要とされること、感謝される体験が、現代薄れてきている義理や人情の心を育てる。
- 本学はキャンパスが2つありキャンパスごとで意見が異なる為、その他の選択とし、下記のように回答致します。
 - キャンパス
 - 5. 学生同士の人間関係づくりに役に立つ
 - キャンパス
 - 10. 地域社会からの大学等への評価が高まる

Q9. 学生ボランティア活動支援連携機関・団体－「その他」の回答

国公立

- 学生が主体となって活動している。
- 学生が活動に関係する団体
- 学生や教員が個別に連携している例はありますが、大学として正式に他機関と連携はしていません。
- 教育委員会
- 大学学生後援会（○○大学の父兄・教職員を会員とする学生支援組織）
- 実習施設
- 青少年自然の家等
- 病院

私立

- UNHCRなど
- いただいた情報のみ学生に掲示発信としている。
- キリスト教主義の学校であることから教会や、その関連団体が主たる連携先である。
- プロスポーツ団体
- マレーシアにある障害者施設でボランティア活動を行っている
- 医療施設
- 宮内庁
- 区の教育委員会（図書館）
- 国際NGO
- 市教育委員会
- 授業（社会奉仕活動のサービス・ラーニング）で地域の病院等へ出向く
- 修道会
- 赤十字
- 設置母体（宗教団体）の持つボランティア部門
- 他大学の教員や手話通訳を委託している個人
- 地域の青年会議所
- 町内会の清掃関係組織
- 通信教育部のみの短期大学であり、連携が困難である。
- 提携・連携など、文書を取り交わすことはありませんが、神奈川県内の社会福祉施設等からボランティア募集の情報を頂いています。
- 提携まではいたっておりません（周辺の小学校でのガードボランティア（休憩時間や放課後に一緒に遊ぶ）等の実績はあります）。
- 東京商工会議所
- 日本聖公会神戸教区
聖公会関係学校協議会
- 病院
- 病院、日本赤十字、JICA等
- 本学附属病院（小児病棟等）

Q10SQ2. 学生ボランティア活動推進における今後の重点施策

国公立

- 「学校教育ボランティア」に登録した学生が、どの程度の割合でボランティアとして活動しているのかについて、実態を調査・把握したい。今後のボランティア志望学生のモチベーション向上にも繋がると考える。
- ・公共の精神やマナー向上
- ・多くの学生がボランティア活動に参加しやすい環境を整備したい。
- ・知的障害児へのスポーツ支援を目的とした学生のボランティア派遣
 - ・海外の孤児へ物資等の支援活動
- ・適正なボランティア情報の提供
 - ・安全な活動の保障
 - ・統括する教育学部ボランティアセンターの設置
- 大学の公認団体である学生ボランティア団体について、助成を実施していきたい。
- いろいろなボランティア活動の情報を提供し、ボランティア活動に取り組む学生数を増やしたい。
また、途上国への文具等寄付活動を行おうとしている。
- 学生団体と大学との連携、学生団体間でのネットワーク作りを行いたいと考えています。
- サービスラーニング科目の設置
- できるところから機関・団体との協働を進めていきたい。
- ピア・サポート（学内ボランティア活動）
- ボランティアに関する学内広報活動を充実させ、学生の派遣をより積極的に行いたいと考えています。
- ボランティアの情報は掲示板や各サークルに文書で通知しているが、多くの学生がボランティアに関心を持つよう更なるPRに努めたい。
- ボランティアを行う学生とボランティアを必要とする機関・団体の希望に合った需給を行うこと。
他大学のボランティアセンターと交流し、情報交換を行うこと。
- ボランティア活動に関する情報の収集及び学生への提供
- ボランティア活動に必要な場所、資材等の整備
- ボランティア活動の支援を行うことが、地域貢献の寄与に十分つながると思うので、積極的に行っていきたい。
- ボランティア活動を行うサークルからの要望事項に対して出来るだけ対応する。
- ボランティア活動を普及している団体と関係を強化し、本学ボランティア団体が活躍できる場を提供できるようにする。
- ボランティア活動調査中のため不明
- ボランティア関連の正課外活動について、単位化を検討している。
- ボランティア参加学生数の増加
- ボランティア紹介窓口の充実。ボランティアにかかる保険の充実。
- まずは、学生支援係の人員増を凶らなければ、これ以上どんなに素晴らしい事業を行っても対応できない。しかしながら、人員増は税金投入増につながる。
- 一般サークルを主体とした地域と大学を結ぶボランティア活動の醸成
- 科目と活動の広報
- 介護関係について
- 学術的レベルでの貢献
- 学生にアンケート等を実施しニーズを確認し、それと照らし合わせて支援活動を行っていききたい。
- 学生のボランティア活動の場である地域と交流を図り、ボランティアの情報量を豊富にしていきたい。また、地域のボランティアグループが一斉に集まって、活動展示の発表会や交流会を開催している時には、積極的に参加していきたい。
- 学生のボランティア活動支援強化として、学生自身のボランティア希望に関する情報を事前に把握し、多種多様なボランティアのニーズに対して、能動的に対応できる方法を検討する。

- 学生のリーダーシップの育成、地震等の災害時における支援体制作り
- 学生の自発的な活動に対して、効果的に支援していきたい。
- 学生の社会貢献活動を支援するため、市民との交流や学生主体の地域連携のための支援を行っていきたい。
- 学生の積極的な参加
- 学生の迷惑駐車・駐輪等で周辺の住民からは、学校が、迷惑施設のように思われている面もある。近隣自治会の各種行事へ積極的に参加することで、地域との一体感を高めていきたい。
- 学生への情報提供を愛好会以外の人にも行えたらと思う。
- 学生主体のため、大学として把握していない
- 環境問題に関心の深い機関・団体と今後、一層の連携、協働を図りたい
- 教育委員会との連携の強化
- 教育委員会と連携して学生の資質向上を図りたい。
- 県内のボランティア団体との交流に力を入れる。
- 現在のところ、教育人間科学部が主体となっているボランティア教育活動を他学部の学生も積極的に参加できるようにカリキュラムを組み、地域住民のために学習成果を還元したい。
- 国立大学法人鹿児島大学ボランティア支援センター設置（平成20年7月15日）
- 実際にボランティアに参加してどうだったかという事後報告やまとめ等の実施がなされるとよい。
- 社会的問題への関心の高揚と力的一端となること。
- 小・中学校と連携し、学生が理科実験等を行うことにより、地域教育へ貢献していきたい。
- 上記SQ1の取り組み（「関係機関との協定を結び、学生の待遇面の確立を図る。」）について、なお一層の拡充を図る。
- 他団体との連携
- 多くの学生に興味を持ってもらえるための支援体制の構築及び環境の整備
- 大学周辺の清掃業務
- 地域のもつ市民力を大学教育に活かすこと。
- 地域の人が大学の学生ボランティアセンターに足を運んでいただけるようPRを行っていきたい。
- 地域の要請に応えられるような仕組みづくり、学生の意識向上
- 地域貢献の推進。
- 地域社会と連携し、環境関係、ものづくり関係を主とし社会貢献を進展していく。
- 地域住民との連携
- 本学では、学生へボランティア情報を提供することを目的として、当該業務を学生相談室が兼務することとなった経緯があるため、今後も県及び市のボランティアセンター等との連携を密にしていくことを第一義と考えている。
- 毎月、定例の活動を推進していきたい。

私立

- 各種障がい者施設及び高齢者施設等、大学の教育（カリキュラム）に関連ある事項の他、環境保全等のボランティア支援（連携）
- 公開講座の充実及び幼児文化・幼児体育の研究開発
- (1) 学生へのボランティア教育と学生自身の活動組織の確立
(2) 学内教員（ゼミ）との連携
- ・ボランティア活動の広報・啓発活動
 - ・個人の問題としてだけでなく、社会の問題として捉えることができる視点の涵養
 - ・砂漠植林の強化
 - ・地域との交流強化
 - ・他の支援団体との交流強化
 - ・他大学学生との情報交換等
- 地域行事の参加
- ・これまでの取組を基盤とし、地域ニーズを察知し、その解決を図る活動、提案ができる人材育成
 - ・大学間、学生間のパートナーシップの強化

- ・これまで以上に連携をとり、支援をいただきたい。
- ・在学中に毎年2回以上の参加活動をさせたい。
- ・ボランティアを積極的に推進するためには学内でのボランティアに対する理解を深めて行かなくてはならないと思う。
- ・ボランティアに参加する前の事前学習の実施。
- ・地域の施設、団体との交流のシステム化。
- ・ボランティア活動を行なうためのスキルアップ（資格取得等）
- ・一部の学生だけでなく、出来るだけ多くの学生にボランティア活動をしてもらえるように改革していきたい。
- ・各ボランティア団体との連携による社会教育の推進
- ・学生のボランティア意識の向上のための協力依頼
- ・学生が安心して取り組めるボランティアを紹介すること。
- ・学生のボランティアに対する理解度を深める
- ・学生の参加プログラムの開発
- ・活動する時間と場所が限られる。
- ・限られた中で実施できる場所の開拓が必要。
- ・共催でボランティア活動を企画
- ・教員の資質の向上が望まれている現在、教員を目指す学生にとって、大学時代からの様々な体験が必要と思われる。今後は設置されている“学校教育ボランティア事業室”をさらに充実させ、学生と幼小中学校のニーズに迅速に対応していきたい。
- ・授業で習得した建築設計やまちづくりに関する知識を、地域と連携して現実的な提案として発信していく場を増やしていきたい。
- ・地域住民の方々へのヒアリング、意見交換、提案へのフィードバックを通して、交流を深めながら地域の活性化に寄与したい。
- ・参加学生を増やしていくこと
- ・社会参加への関心と交歓を高める
- ・ボランティア活動への参加支援
- ・地域のボランティアグループ・NPOによる講演や学生との懇談会の実施、それらが主催するボランティアへの参加の促進。
- ・社会福祉協議会と連携による地域の他大学学生と本学学生のボランティアネットワーク作り。
- ・地域の行政機関との連携
- ・地域の多民族集住地域との交流を進め、定住難民の生活・学習支援を今後も継続する。
- ・難民支援や、子どもの人身売買被害者救援、人権・平和活動に関わるNPO等で社会貢献活動をする卒業生との連携を生かし、体験学習の場を増やしたい。
- ・地域住民との協力体制
- ・来年4月にボランティアセンターが立ち上がるため、運営上の指導や学生用プログラムの作成、学生のスキルアップ講座などに協力いただきたい。
- ・連携、協働により、学生のボランティア活動への関心向上
- ・学生のボランティア活動への参加増加
- 1. 21年度から基礎教養科目に「ボランティア活動」を設置する。
- 2. 他の関係機関との連携を深める。
- 1. アドベンチャーカウンセリングを介在しての学級運営の手伝い（いじめ・不登校をなくす）
- 2. 自閉症児などの音楽療法の手伝い
- 3. 障害者（筋ジストロフィーなど）の生活の自立支援活動
- 1. 茨木市スポーツ少年団と連携協力に関する覚書を今年度に締結。合同イベントの開催等、より多くの学生が係わって連携協力を進め、地域貢献していきたい。
- 2. ボランティア活動保険への団体加入を検討中。学生が安全にボランティア活動ができる環境を整えることで、より多種のボランティア依頼を受け入れられる体制も整えていきたい。
- 1. 学生への指導の充実、
- 2. ボランティア先の機関・団体との連携強化
- 3. 学内体制の改善・充実

- 1. 地域との交流及び貢献をさらに推進して行きたいと考えています。
- 2. 来年度より単位化した授業科目としてのインターシップを実施します。
- H21年度より「社会活動」として科目を取り入れ、積極的に取り組む。
- NPOへの学生派遣やボランティアサークルへの支援。
- NPO法人アジア子供支援フジワーク基金が得意としている、おもちゃ作りを通じた、子どもとの関わりや海外ボランティアなど、本学で講演会を依頼。
大阪市肢体障害者協会と連携し、障がい者理解のための体験的な講座の実施。
- 安全性の確保や精選が難しいので窓口の一本化や専属な役割ができるよう明確にしていきたい。
- かいしゃごっこサークルにおいて、養護学校との連携を検討しており、現在準備中である。
- 学生のみならず教職・事務職を含めたボランティアに関しての意識の高揚
- 学生ボランティアの活動する学生を増やしたい。
- 学内制度の整備
- キャリアサポートセンター（就職課）との連携～キャリア教育とボランティア学習のコラボレーション
本学の特色を生かした「海外でのボランティア活動」体験プログラムの開発
- 教員との連携
- クラブ・サークル活動としての充実
- クラブ員が減少しており、増員したい。
- 車椅子講習会・介護講習会など上級生から下級生の指導に力を入れたい。
- コミュニティとの連携が不十分なので、今後強化できれば。
- これまでは、学生と学外のボランティアを必要とする施設とのコーディネート活動が主流であった。今後もこのような活動が主体となると思われる。できれば大学内において、定期的にボランティア活動が行える場を作っていきたい。例えば、親子が学生とともに遊ぶ「親子広場」といった子育て支援を学内でも実施したい。
- これらのサークルについて、相手側から高い評価を受けていることを耳にします。なお一層の活躍を期待するとともに、それにとどまらずボランティア活動について教職員の理解と関心を高めていきたい。
- サークル等の減少に伴い、ボランティア活動への理解、関心や、意欲を向上させるための方策の充実。
教職課程の科目として取り入れることへの検討。
- さらに地域との連携、就職先にもつながる、福祉施設などとの連携を進めていく。
- 少しでも地域に貢献できるよう体制強化を図っていきたい。
- スポットでの活動ではなく、定期的なワークができるように連携していきたい。
- それぞれの組織、団体と独自のボランティアプログラムをつくりたい。
- 地域のボランティア団体との連携を深め、ゴミ拾いなどのエコ活動を推進していきたい。
- なるべく派遣の偏りが生じないように、できるだけ多くの学生に参加の機会を与える。
- ネットワークの強化
- ノートテイク、手話通訳者等の障害のある学生への学習サポート体制の強化、並びにシステム化
- ボランテアを積極的に推進するためには、学内でのボランテアに対する理解を深めて行かなければならない。
- ボランティアが入ったサークルは、遅くまでその準備をしているので、全面的に支援していきたいと思う。
- ボランティアサークル活動の奨励
- ボランティアとして参加することにより、その経験が、就職の活動に活かせる。
学生の協調性・人間形成の向上に役立つ。
- ボランティアに関するものを含め、学生による課外活動の活性化。
- ボランティアに関する単位認定科目を増やす
十分な活動スペース及び設備の設置
専門職員の増員
- ボランティアに行く学生に対しての事前指導の強化、意識向上のための講座の実施。
- ボランティアに対する学生の意識向上
- ボランティアの情報提供、活動の相談・支援、調整

- ボランティアの単位化
地域社会への貢献
- ボランティアを希望する学生及び希望するボランティア内容等に関するデータベースを作成し、ボランティア・コーディネートの仕組みを立ち上げたい。
- ボランティア学生の確保
- ボランティア活動と学内の授業との連携を検討していきたい。
- ボランティア活動に対する連携機関・大学双方の意識の高揚と活性化
- ボランティア活動の学生への啓発
- ボランティア活動の企画・立案
- ボランティア活動の啓蒙と、各ボランティアサークルの増員
- ボランティア活動を含む正課外の活動は、広くいえば学生の人間力向上に資するものである。大学としては、学生が広く社会と関わる活動機会を提供することにとどまらず、活動に際して必要となる組織マネジメント、リスクマネジメントなどに関する教育・指導を行っていくことが重要と考える。また学生の優れた取り組み事例を他の学生に伝えていくことも重視する。そのことが、大学全体としての課外活動の活発化・高度化を促すことになると考える。
- ボランティア活動を実施する学生への援助
- ボランティア活動を通じて、学生がより多くの人々と出会うことにより、地域社会に目を向けると共に、人として成長する機会としていきたいと考えている。
- ボランティア関係の活動を行う
クラブの活性化
- ボランティア情報の量をもっと増やしていきたい。
- ボランティア担当者の専従化
- ボランティア団体と連携を密にし、募集情報の提供を定期的に行ってもらおう。
- ボランティア保険の加入・ボランティア情報の提供の工夫・授業等での教員からの協力量の推進
- ボランティア養成講座の連携
- もっといろいろな場で大学と地域、そして学生が積極的に取り組みたいと思う。
- もっと依頼に対応できるように、ボランティアへの学生意識を高めたいと思う。
- より、学生自身が積極的に自らボランティアに取り組めるような体制作りを進めていきたい
- より多くの学外団体や大学と情報交換を行い、連携を図っていきたい
- より多くの学生がボランティア活動に積極的に参加するような体制の整備
- リーダーシップを発揮できる人物の育成強化
- 依頼がきてからの対応となっているので、受け身でなく積極的に活動するよう学生からアピールしていける体制をとっていきたい。
- 一つは、廃校を活用した「自遊塾プロジェクト」である。小学校に残された施設・設備を順次整備し、様々なプログラムの提供を試みる一方で、児童のみならず、地域住民の中に潜在する「教育力」を掘り起こし、児童に対してより厚い発育支援を構築する一方で、地域振興の核として成長させていきたいと考えている。
二つめは、今年度開設された「動物ふれあい公園」を活用した「動物ふれあい体験プロジェクト」である。飼育する動物の種類・頭数を充実させ、様々なふれあい体験プログラムを取りそろえ、動物とのふれあいを通じた市民の憩いの場として整備。
- 栄養と運動の両面から健康を支援する社会貢献活動
- 過去に募集・取り扱い実績のあるボランティア活動について取りまとめ、分析、評価。学生のニーズにあった活動を即座に案内する。
- 会合・情報交換・相互視察
- 各機関との更なる連携強化
- 各種助成の充実などで、学生のボランティア団体が活動しやすい環境を作っていく。
また、学生のボランティアへの興味・関心を醸成するため、外部のボランティア講座等をより広く学生に周知する。学内でのボランティア説明会等も企画する。
- 学園祭に参加してもらい、講話を依頼。
また、模擬店を出店してもらっています。
障害者の方々の生き方に学生や、地域の人々が直接的に接して、メッセージをもらう機会としています。そのことによって、本学のボランティア活動の向上を図りたいと考えています。

- 学外ボランティア団体（社会福祉協議会）との連携を深めボランティア募集情報を広く学生に周知し参加を促したい。
- 学生・教員の理解と関心を深めていきたい。
- 学生が、経済的な理由もありアルバイトをせざるをえないので、ボランティアに時間があまりさけない事情がある。
サービスラーニングなど、関連授業に積極的に取り入れていくのがよいと考える。
- 学生がボランティア活動に参加していくための仕組みづくり
- 学生が活動しやすいよう情報収集と環境整備に力を入れたい。
- 学生が主体となったボランティア活動
- 学生スタッフの養成を目指し、県や市のVCあるいは中央の学生ボランティア推進団体が行う研修への積極的参加を進めていきたい。
- 学生と教員の理解と関心を深めていきたい。
- 学生と地域・地域と大学の協働化
- 学生と地域住民との積極的な交流
- 学生に対して、ボランティア活動への積極的参加について周知徹底を図り、ボランティア活動を促進したい。
- 学生のニーズのあるボランティア活動の取り組み
学生ボランティア対象の研修会の開催など
- 学生のボランティアに関する理解を広めると同時に、社会に貢献する意識を醸成していきたい。
- 学生のボランティアに対する意識・意欲の向上について。
- 学生のボランティアへの理解と関心を深める
- 学生のボランティア活動に対する意識の向上と学内の体制作りに入れたい。
- 学生のボランティア活動参画意識の高揚と啓発
- 学生のボランティア参加への動機付け
- 学生の意識の高揚。
- 学生の意欲の向上と積極性
- 学生の学ぶ姿勢や意欲の向上に結びつくことなら何でも手掛けたい
- 学生の活発な参加
- 学生の希望とボランティアとのマッチングに力を入れたい。
- 学生の居住地の社協、ボランティアセンターとの連携を強化する。
新発田市内のNPOとの連携を強化する。
- 学生の興味・関心に応じて今後検討したい
- 学生の興味が高い分野において、または地域のニーズに応じて、今後も学外機関・団体との連携を強めていきたい。
- 学生の社会参加を促す観点から、社会教育施設、自治体、企業、地縁組織との連携を推進していきたい。
- 学生の積極的参加
- 学生へのボランティア活動の情報提供とコーディネート機能
- 学生への音楽指導ボランティアの意義について、更に周知するとともに、希望学生と受入側とのコーディネートの充実、体験者間での情報共有が可能なシステムの構築を行ってゆきたい。
- 学生への啓発活動、及び情報提供の促進
- 学生ボランティアコーディネーターの養成とコーディネーター賃金の財源確保
- 学生ボランティアの育成（レスキューボランティア、マナー等）委員会等の学内組織化、整備。
- 学生ボランティア活動へのサポート。
- 学生ボランティア受け入れ先としての機関、NPO、団体などの拡大
- 学生や教職員のボランティア活動に対する意識向上と環境作りに入れたい
- 学内での体制づくりと同時に、専門的な知識をもったスタッフの育成。
- 学内での知名度を上げて行きたい
- 学内にある学生資源（クラブ活動等）社会貢献性の高そうなものに関しては、今後、地域のニーズを掘り起こしてその需要に答えていきたい。

- 学内におけるボランティアの拠点づくりと組織づくり
- 学内におけるボランティアセンターなどの学生からの相談や情報提供に関する部署を設けるなど学内の運営体制の検討
- 学内の運営体制を整備するとともに、学科の特色を生かしたボランティア活動を推進することにより、地域に貢献し連携をはかる。併せて、学生中の活動中に生じる事故の補償を整備する。（保険）
- 学内ボランティア組織を育成した上で、本学の特色を活かした地域貢献。
- 活動に参加する学生の幅を広げること。
- 活動内容の充実及び学生への浸透を行い、より沢山の学生の参加。
- 関係学生への連絡の徹底
- 関係団体からの情報収集
- 教育ボランティアの更なる充実。大学間連携の充実によるボランティア支援の充実。
- 掲示のスペースがあまりないのですが、できるだけ多く紹介したいと思います。
- 継続させていくこと。
- 現在、Q10-SQ1で回答した取り組み以外に具体的に計画はありませんが、当校は、千代田区、八王子市の教育特区を利用し、開学していることもあり、断続的にはありますが、様々な取り組みを行ってまいりました。今後も、地域、自治体などと協力体制を取り、教育を通して、さらなる交流を実現したいと考えております。
- 現在、美術大学としての特性を活かして区との連携を深め、学生が協力できる事業等について区と共に検討を行っている。
- 現在は地域の学校やボランティアグループ主催の活動に参加することが中心となっているが、社会に開かれた大学造りを目指し地域社会に貢献できるよう本学学生が主体となるボランティア活動も考えていきたい。
- 現状では時間的、人的（教職員ともに）余裕がなく、力をいれていくことはむずかしい。
- 現状のマンパワーでは現状維持が精一杯だが、地域を中心に連携をはかっていきたい。
- 現状維持
- 交通費など学生に負担をかけないように調整する
- 更なるボランティア活動への参加
- 高齢者が多い土地柄、若い力を地域でいかせるような取り組み
- 国内、アジアへの国際ボランティアの推進。
- 今後は他大学のボランティア団体との活動にもより一層力を入れていきたい
- 今後も、地域との連携をはかり、子供たちの育成に努力していきたい。
- 今後も学生の理解と関心を深めながら広範囲に渡って活動できれば良いと思う。
- 今後も学内諸団体や授業などを通して学生の参加を呼びかける。
- 今後推進するために、学内運営体制の整備と教職員、学生の理解を進めていきたい。
- 市町村の学校支援ボランティアに、希望学生を派遣する協働体制をとっている。
- 市内小学校との連携強化、行政ボランティアセンターとの関係強化
- 指導者不足の地域スポーツ団体（スポーツ少年団等）へのサークル学生派遣など検討中です。
- 施設等の情報を受け入れ、学生の参加を推進させる。
- 事前教育
- 自治会との繋がりによるものだけでなく、ボランティアグループ・NPOとの連携によって学生のボランティア活動をサポートしていきたい。
- 質の向上及び積極的社会参加
- 社会の構成員として学生がいろいろな人たちと交流することは、社会共存の意識を涵養し、学生自身の成長に寄与する。潜在的にボランティアを希望する学生を、適正に掘り起こし、大学への登録を図り、各種のボランティアニーズに応えることが必要である。そのためには大学におけるボランティアの位置付けを明確にすべきと思われる。
- 社会性・自主性を構築できる学生を育てる
- 社会福祉施設、社会教育施設へ実習の受け入れを依頼しており、その実習先施設でボランティア活動を実施したい。
- 社会福祉施設との連携

- 社会福祉施設への訪問活動
区役所のイベント等への協力
- 取得した保育実践力を生かすことのできるボランティアに力を入れていきたい。
- 授業との連動や研究面での連携。
- 授業時間、実習でボランティアをする余裕が無いので、計画をたててできるだけ多くの学生が取り組めるよう支援していきたい。
- 障害学生の支援をする学内組織の立ち上げ
- 障害児の学童を運営している福祉施設より『発達障害児のソーシャルスキルを学ぶ機会がこの地域にない。親からの要望にこたえたい、一緒に立ち上げませんか?』と声をかけていただき、今年度会議を重ねている。来年度から始められれば良いが、今年は11月に公開勉強会を開催し協力者を募る目的+地域への啓発を行う。2月に第2段を予定。スタッフが集まってきたら、具体的な勉強会をする。最終的には親の会が運営し、大学・福祉施設職員が協力というかたちを目指す。
- 障害者に対する修学支援体制
- 上記との協力を更に推進していく。
- 上記取り組みについて算数だけでなく、複数教科の補助が行えないか検討している。
- 情報共有、協同活動、後援
- 神奈川県秦野市役所や教育委員会とさらに連携を深めてゆきたい。前者との関係においてはインターンシップの発展、様々な地域のイベントへの積極的な参加などを行う。後者との連携を通し、多くの教育機関との組織的なネットワーク作りを目指す。
- 身の丈に合った活動を細々とやっていきたい
- 身障者、障害者等に力を入れたい。
- 数あるボランティアの依頼が学生の教育的効果があるものかどうか精査したうえで学生に周知していく体制整備に力を入れていきたいと考えています。
- 清掃活動
- 赤十字活動への参加（ボランティア育成や救急法など講習会への参加）
地域のボランティア活動に赤十字ボランティアとして参加
- 先の回答のことをより充実させていきたい。
- 専門の組織を立ち上げる
- 他大学との交流
- 滞日外国人、ホームレス支援
長期的な関わり（単発なイベントだけでなく）
- 大学と地域が連携し、地域の問題解決に向けた持続的な取組を行う。
- 大学のあるみどり市と協定を定めており、この協定にもどつき、教員や学生のボランティア活動を推進していきたい。
- 大学近隣地域との連携
- 大学祭とのタイアップ（企画）
- 大学周辺の地域組織や地域活動との連携。
- 短期大学のあるみどり市と協定を結び、この協定にもとづき、ボランティア活動を推進していきたい。
- 短期大学の女子学生として地域社会に貢献できる活動に協力したい。
- 地域（近隣住民）との連携を強めたい
- 地域（区役所）と協働協定を締結しているので下記に力を入れたい
 - ・まちづくり
 - ・地域福祉
 - ・子育て支援
 - ・生涯学習
- 地域に開かれた大学として、町内会、自治会等の地域組織との関係作りと連携を図り、社会貢献活動を行っていく。
- 地域に密着したボランティア活動を行い、地域の方と学生の交流をより深められるようなボランティア活動を展開していきたい。
- 地域のお祭への積極的協力

- 地域のニーズを知り、より良い地域貢献ができるよう情報交換し、地域社会に根ざした学生のボランティア活動を特化して活動を推進していきたい。
- 地域のボランティアグループ、NPO、自治会、行政機関等の関係を築いてお互いが協力し、地元根付いたボランティアを続けていくこと。
- 地域のボランティア団体との連携を強める中で、学生の積極参加を促していきたい。
- 地域の小学校における学習支援。
- 地域活動の現場を体験学習のフィールドとして授業に活かせるよう教員への紹介や相談
- 地域行事での似顔絵ボランティア
介護福祉施設内の似顔絵ボランティア
- 地域行事に積極的に参画・社会福祉施設にて作品制作の協力
- 地域行政機関のボランティア懇談会への職員の参加
- 地域貢献に留まっている活動を、学生のインターンシップや進路につなげたい。
- 地域貢献のため、催し等の参加に力を入れていきたい。
- 地域団体とのつながりを強める必要があるかも知れない
- 地域福祉教育の協働推進
- 地域連携による学校独自の協同プログラムの企画と実施
- 地域連携を推進し、継続的に（学生が卒業してもつながる）連携をすすめる。
ボランティア募集团体との共同プログラムなどの開発。
- 中学・高校との連携。
- 長期実習等、学生自身も勉強面で忙しいことも多いので、ボランティア内容(頻度や実施時間等)を考慮したうえで情報提供していきたい。
- 当日の活動参加から、その前の準備段階(委員会等)にも参加を上げたい。平日が多く授業時間の関係で難しい現状はある。
- 当面は、学生団体の主体的な活動を支援できる体制づくりに向けて取り組みたい。
- 当面は同上(Q10-SQ1で回答した内容)の取り組み
- 特定の団体とは、継続して連携が取れているため、一定成果は収められていると感じる。しかし、特に地域の小学校等でのボランティア活動については、高い意識での取り組みが必要であり、そのための事前勉強会を実施する等、学生への意識の涵養を深めるための連携をとりたい。
- 難病ブルーリー潰瘍に苦しむ子供たちを応援する国際ボランティア活動がある
本学プロジェクトの理解と協力の拡充
- 福祉、教育分野を中心に学生に働きかけていきたい。
- 保育園・幼稚園ボランティア参加促進
- 保険等のシステムの検討
- 本学の特色を活かし、地域活性化に繋がる取り組みをしていきたい。
- 本来のボランティア活動の意義を知ってもらいたい。表面的な活動ではなく、各自が自発的に行うという活動が活性化されることを望んでいます。
- 療育ボランティア以外にも興味関心を持ち色々な分野のボランティア活動に参加する
- 連携した実習プログラムの企画・・・各団体と実習の内容・方法について相談し、次年度以降のカリキュラム等へ反映させていくこと等。
- 連携する機関・団体を増やし、地域社会への貢献活動を促進していきたい。
- 連携先と協力し事業を創出する。

Q11. 学生ボランティア活動支援に関する意見・要望

国公立

- とにかく、学生支援係の人員増、もしくは業務の移譲である。本学では一人で学生支援を行っている。授業料、学研災等の保険、奨学金、私費留学生、学生相談、学籍異動、卒業行事、大学祭等の全ての行事、学生ボランティア、学生に係る委員会、窓口全般、入試、とにかく業務量が多い。よって、零細大学のための支援をして欲しい。奨学金処理にしても、1人しか該当学生がいようが2,000人いようが、やる仕事、覚える処理の仕方は同じである。その他大抵のものはそうである。
- ボランティアを募集している団体の中には、怪しげな団体も多く、大学として学生を紹介をしてよいかどうか不安である。
- ボランティア活動に対する評価は必要であると思うが、単位の認定や表彰といった形になると、ボランティア活動の主旨が歪められる可能性もある。
例えば、学生のボランティア活動を学校側のホームページで積極的に広報するといった程度の支援が望ましいのではないだろうか。
- ボランティア活動の現状等についてその都度アナウンスしてほしいと思います。
- 海外活動ボランティアを学生に紹介しているが、学生が参加した場合のサポートができていない。海外活動ボランティアに関する客観的な情報サイトを整備していただければありがたい。
- 学生スタッフを募集したい。現在150名の学生ボランティア人材バンク登録者の中から、学生スタッフを募り、学生と意見交換をしながら、無理のない、負荷の少ないものを目指していきたい。学生スタッフを配置することで、活動の継続性が保たれるものと期待できる。活動の内容は以下のとおり。
 - (1) 学生総合支援センターの基で、ボランティア部門の運営を手助けすること。
 - (2) 本年度に立ち上がる「ボランティア連合体」の中核として、リーダーシップを発揮する。
 - (3) 本学主催のボランティアセミナーをサポートし、将来は、企画・運営をしていく。
 - (4) 既存のサークル活動団体のつながりづくりをして、連携を図っていく。
- 学生ボランティアについて、専任の部署がなく、どうしても手が回らなくなっている。
- 教育の効果と同様、ボランティアの効果も測り、実証的根拠に基づいた支援が必要であると考え、ボランティアについてはそのような視点が薄いと感じる。
- 現在、ボランティア活動に関連した授業科目の開講を検討する等、積極的に取り組んでいる。
- 現在、学生のボランティア活動に対して、支援等を行っていない状況である。今後は、学生主事室、学生会役員等と前向きに検討したいと考えている。
- 現在は、学外団体からの要請があれば調整して引き受けている状態であり、積極的な活動支援には至っていません。
- 現状では、積極的な学生ボランティア活動支援を行っているとは言い難いところであり、今後、大学内における支援体制の整備（カリキュラム等も含め）を進めていきたい。
- 今後、職員がボランティアに関する勉強会に参加し、また、他大学のボランティア活動支援に関する取り組み等について学び、ボランティア活動支援を積極的に行うための参考としたいと考えています。
- 前の設問（Q5）に関連しているが、ボランティア、NPOの中でも活動内容が不透明の団体も多く、情報の取捨選択は大学側も学生側も注意を払う必要有り。
不透明な団体の情報を共有・提供出来るようなシステムが構築されると有り難い。
- 他大学の取り組みを参考にしたいと考えておりますので、そのようなものをまとめた冊子や電子ファイルがあれば頂ければと思います。
- 大学の現在のボランティア活動
 - ・くまのまえかけ
車イスバスケットチームのサポート
 - ・WILL
ボランティア（対象者と一緒に散歩などの活動を行う）
 - ・35（サンゴ）サポネット
荒川区在住の産後間もない子育て中の母親に対して家事・育児の訪問によるボランティア支援

- 短期大学のため学生に時間的余裕が少ない。
- 地域社会の高齢化により、学生に参加を期待する活動が多くあるが、部活動や行事に関心が向いており、なかなか地域の期待に応えるところまでは活動できていない。活動することを、より積極的に評価しなければ、なかなか広がらないのではないかと思う。
- 平成20年度に文部科学省の学生支援GPに採択されたことにより、学生ボランティアサポートセンターを設置し、これまで以上に学生のボランティア活動への支援を充実したい。
- 本学では、学生の自発的な動きのみであり、大学としての特別な支援はしていない。
- 本学では、ボランティアの団体も一般的なサークル団体と同じ扱いであり活動場所を見つけるだけでもとても苦勞している。
学生がもっと活動しやすいよう支援体制を整えたい。
- 本学は、大学共同利用機関の設置する18研究所等を基盤とする大学院大学であり、研究の現場において大学院教育を実施しているため、学生のボランティア活動を推進する体制は特段とっておりません。
- 本学は専任の部署がないため、学生係で受付し、ボランティアサークルの顧問教員へ案内を配付し、対応している。
- 本校では、学生会を中心にボランティア委員会を立ち上げ、学内及び学外、地域に貢献できるように目下検討中である。
- 本校は中央から離れた土地であり、且つ理工系学校で放課後の実習等も少なからずあるため思うような行動がとりづらい点が課題です。

私立

- 教職員、学生ともボランティア活動に関する研修、情報交換会、補助金等、引き続きご支援をお願いいたします。
- 1. 大学ボランティアセンター設置大学へのセンター運営や活動のための財政支援。
2. 全国の大学で学内ボランティアセンターの設置・義務化⇒補助金・助成金の支援
- いろんな機関から数多くの要請がくるので、それらの取捨選択が難しい。（基本的には「自分たちの成長に資するもの」への参加を目安としている。）
- ボランティア活動支援の協力依頼を掲示板に張り出すが積極的な参加者がいない。大学としての活性化を図っています。
- ボランティアの募集があった場合、掲示板に掲示しています。
- ボランティア学生の集いを、ぜひ新潟県でも開催していただきたい。
- 学習歴になる大切なチャンスであり、今後も学生へ積極的に支援していきたい。
- 学生がボランティア活動に対して関心が薄い、今後どの様に関心を持ってもらうかが課題である。
- 学生のボランティアの活動を積極的に支援していきたいが受け入れ先によって、交通手段、交通費の捻出に苦勞しているのが現状であり、ボランティアに対する対価は必要としないが学生個人の負担では厳しい。補助金対策が是非必要である。
- 学生のボランティア活動に関する授業および課外活動の検討が一切なされていないので、この調査への回答ができませんでした。
- 学生の本分は学業であり、ボランティアは、余暇の範囲にとどめるべきであるが、各種の支援活動、マスコミ報道により、そのスタンスを履き違える者が多い。この学生の指導をいかにして行うかが課題である。また、ボランティアにおける事件・事故は、すべて参加者の責任になることを、どれだけの学生が把握しているか心配である。
- 学生へのボランティアへの関心・興味をいかにもたせ、実践へ誘うかが大きな課題である。次年度には学内組織的に教学部の下部組織として今年度設置したが、そこから独立し許された範囲内での決済がボランティアセンター長で可能になるよう組織機能を高めたい。それが学生を支援していく体制強化の一步となる。
- 学生を地域活動の安易なお手伝いとされるのは抵抗がある。きちんとボランティアマネジメントのできるNPOと協力関係を築くことが必要で、そのためには大学側からボランティアについて学ぶことがあると思う。また、ボランティアだけでなく社会起業に取り組む学生が増えれば、多くの学生はもっと生き生きとしてくると思う。
- 学内における運営体制の整備（人員とスペースの確保）の検討と具体化などへの取組みが重要である。
- 学内組織の位置づけを明確にし、運営する体制を整えて行く必要があると感じます。
- 関西でのボランティアや障がい学生支援等の研修実施を希望します。

- 現在、心理福祉学部の学生が中心で、他の学部学生は極めて少ないのを全学的に広め、多くの学生が参加できるようにしたい。
ボランティア活動に対して単位を認定するのは、動機が不純との声もあるが、「ボランティアの心」を育てるためのきっかけになる。一度経験すると、あとは「自ら」「無償でも」「自分の時間を犠牲にしても」参加してくれるようになる。「やらなければ」と思っている学生は多いので、彼らの背中をちょっと押してあげることが大切だと思われる。
- 個人のマナーモラルに関与する部分も大きいですが、人間の成長を考える上で、最も効果のあるものの1つだと思うため、学生が活動する場合は積極的に支援したい。
- 今後、少しずつ整備していく必要があると思います。
- 今後のボランティア活動においては、外部機関とより連携をとり、情報交換を行って学生の支援をしっかりと行って行きたいと思う。
- 今後検討したいと考えております。
- 今春開学したばかりで、すべてこれからの状態です（Q9で回答した施設等からの要望はあるのですが、まだしっかりと対応できていない状態です）。ボランティア活動への参加は、学生にとって良い経験となるので、今後とも推進していきたいと考えています。
- 最近学生のやる気の低下がみられる。そのため、そのやる気を一定に保つことが難しい。
- 災害救護ボランティアサークルに66名の学生が所属し、勉強会（AED、心肺蘇生法、三角巾法、災害メイク等）、地域防災セミナー等への参加、災害や救護に関する知識・技術を習得し、突然の災害などに対応できるように訓練をしている。災害地へ行って活動を行う旅費、宿泊費は学生負担となるため、希望しても経済的に厳しく参加を断念する学生もいる。
- 時間の余裕が無いことと、交通の便が悪いので活動がままならない状況です。授業の一環としてやればとおもっているのですが、そのような状況ではないようです。全体的に意識の改革を促すような支援があればと思っています。
- 自主的なボランティア活動を推進するための施策に苦慮しています。
- 社会貢献として、ボランティア活動をカリキュラムに位置づけたい。
- 社会不況により、家計が苦しく、時間があればアルバイトをしなければならない学生が多く、現実問題として余裕がないように思われる。また、ボランティアに行くための交通費等も本人の負担になっている。
- 若者の道徳観の欠如が取沙汰される今日、本学では社会教育の一環としてクリーン・キャンペーン活動を実施しています。教職員、学生一体となり、学内および通学道路の清掃（タバコの吸殻、空き缶の拾い集め）を行っています。これは身近な学内の環境美化運動および地域住民への活動のアピール推進にも一役を果たすと考えられます。ボランティア活動は身近な行動からということが基本ではないでしょうか？
- 心配なのはボランティアの本質である自律的、という側面が、サービスマーケティングなどの導入が増えることにより見失われるのではないかという点。
- 正課・課外の枠を超えて、地域社会と大学・学生の学びと成長をトータルで検討実践する組織の構築。
- 他大学の状況について教えていただきたい
- 大学が、今年度開学したばかりなので、ボランティアに関する授業科目などが、しっかりと決まっていません。次年度以降、しっかりと体制を整えていきますので、今回は十分な回答ができませんでした。よろしくお願いいたします。
- 大学におけるボランティア活動の支援は教育の一環として行うものであり、学生が無償で自分に合う社会的貢献を行うことで、活動を通じた人との出会い、社会的責任の自覚等を通じて、自己を見つめ、自己を発見し、人格の陶冶に資するものであると思う。畢竟、学生個人の人的成長を支援するものであるが、個人の空間に引きこもりがちで当世の学生たちに、ボランティアの意義をどのようにすれば自然に伝えられるのかが当面の課題である。
- 大学は教育機関のひとつであり「学生を育てる」ことも重要な使命であると考えているが大学教職員間においては一般的に非常にこうした意識が低いように感じ、そのため学生のボランティア活動支援がやりにくい。
また専門職であっても非常勤の場合が多く、日常的に学生と直接対話し、現場を熟知している身分にも関わらず、様々な意思決定の場面で発言権が認められず、学生のボランティア活動支援の状況改善に全くつながらない。

- 大学ボランティアセンターには、多様な形があるが、本学のように、どの部局にも所属しない独立した「センター」の場合、学内の日常的な諸連絡、他部署、教科担当者との連携、広報が重要である。学生主体の教育機関としての明確な性格付けの上に、教科との連携、学生課等他部署との連携が必要である。また、主体性と責任という点では、フォローアップが常に課題であり、より有効な学生ボランティア活動支援の形を求めて、悩みは尽きない。他校との情報交換やフォーラムなどに励まされている。
- 大学内の学習支援の為に学生ボランティアに応募して来る学生だけでなく、一般ボランティアへ参加するボランティア希望学生自体ほとんどない状態である。ボランティアをする心の余裕のない学生が増加しているように思われる。
- 大変必要で重要な活動と思うが、学内体制が十分でないため、活動が活発とはいえないが専門教科（保育、児童学科等）で学んだ知識、技術を生かしたボランティア活動は発展する可能性はあると思う。
- 単位化等ボランティア活動の普及・支援を行なうことを検討していきたいと思います。
- 単純な無償労働の提供ととらえている申し出が多く、ストレートに学生に取次げない事案の少なくないことが悩みである。
- 短期大学2年間では、学業に追われボランティア意識が高まる程、学生に余裕がない様な気がする。
- 短大ということもあり、講義や実習に学生は時間が無く、ボランティアへの意識は薄くなっている。また、社会不況により、家計もたいへんなこともあり、時間があればアルバイトをしなければいけない状況も多い。
- 地域の行政機関との連携の強化が不可欠であろうと思います。
- 地下鉄やバス等の交通機関が充分とはいえない地域なのでボランティア活動に参加する学生たちの交通手段の確保が課題となっている。
- 当大学でのボランティア・センター設置が2008年6月ですので、他大学及び貴機構より情報を頂き、学生主体のセンターとして育成したいと思います。
- 特に連携やボランティア活動を積極的に行っておりませんが、周辺地域の方々や行政機関からの要請があれば、その都度考えていきたいと思います。現時点では短期大学の学生の活動は不明です（個々）。実体が不明な事が多いので不安が大きいです。
- 日本では海外と比較し、ボランティア活動は非日常化している（ボランティアは余裕のある人が行うもの）気がします。マスメディア等にて、ボランティアに関する情報がもっと増え、ボランティアへの評価が社会的に向上していくことと、我々の行う教育が両輪となることが必要ではないかと感じています。
- 年間に100件以上のボランティア派遣依頼があるため、学生への広報やボランティアの確保などの支援活動も、かなりの業務になっている。学生も1) 純粹にボランティア活動をした場合、2) 将来、医療福祉専門職となるために役に立つ経験がしたい場合、3) ボランティアを募集しているその施設への就職を希望しており、就職活動の一環として参加したい場合、など、思惑やねらいも多様となっている。しかし、学生は共通して「社会のなかで、有意義な経験がしてみたい」という思いが強く、感心させられることも多い。
- 非常に難しい問題（ペシャワール会の事件）を含みつつ継続させている。安全な協力関係を築きたい。
- 本学では、ボランティア活動は全面的に支援をしている。ボランティアメンバーが多数必要な場合苦慮している。
- 本学では、学生自治活動を尊重しており、公共機関、外郭団体、市民からの要望や依頼については、取り次ぎをするのみである。（一部例外もある）現時点においては、大学として担当部署設置や担当者を設けるなどの検討はされていない。
- 本学は資格養成校であり、カリキュラムや学外実習に費やす時間に忙殺される。ボランティアに取り組む余裕がないのが現状である。
- 本学は大学院のみの大学で、ボランティア活動を始めとする学生の活動組織はないため、上記のアンケートに対する回答は無とさせていただきます。
- 本学は通信教育部のみの短期大学であり、連携が困難である。ボランティア科目は開講しているが、本人の申請、レポートの提出で認定していくため具体的支援活動は限定されている。

- 本来、ボランティアは善意のもとで活動すべきであるが、地域の学生ボランティアに対する期待に、人員的になかなか答えきれていないのが現状である。学生より、ボランティアに関しての興味とやる気を持つために、表彰等、公にアピールできる評価の方法が大学内外問わず整備が整うことが望ましい。
- 予算配置の確立